

夫の家事・育児負担 および在宅勤務に関する調査結果

1 はじめに

新型コロナウイルスが猛威を振るう中、外出自粛により家で過ごす時間が増えている。また、働き方改革として推奨されてきた在宅勤務がコロナ禍をきっかけに広がりを見せている。

そこで、岐阜・愛知・三重・滋賀県に在住の主婦を対象に、夫の家事・育児負担と在宅勤務についてアンケート調査を実施した。

2 調査概要

- (1) 調査時期：2021年11月15日～11月19日
- (2) 調査方法：OKB大垣共立銀行本支店(東京・大阪を除く)に訪した主婦^(※1) 805人にアンケート用紙を配布・回収
- (3) 有効回答数：786名(有効回答率97.6%)
- (4) 回答者属性

年代	20歳代	6.5%
	30歳代	19.7%
	40歳代	24.7%
	50歳代	27.9%
	60歳以上	21.1%
住所	岐阜県	53.8%
	愛知県	41.7%
	三重県	2.2%
	滋賀県	2.4%
	その他	0.0%
就業形態	専業主婦	10.0%
	正社員・公務員・自営業	42.1%
	パートタイマー	46.1%
	内職・その他	1.8%

(※1) 本調査における「主婦」とは、既婚女性で子どもの有無や就業形態は問わない。
(※2) 数値は四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある(以下同じ)。

3 調査結果

(1) 家事・育児負担について

A. コロナによる家事・育児負担の変化

新型コロナが流行する前と比べて家事・育児の負担が増えたかを尋ねたところ、本人(妻)は「増えた」が27.3%、「変わらない」が70.6%、「減った」が2.2%となった。3割弱の回答者がコロナ禍で家事・育児負担が増えたと感じていた。それに対し、配偶者(夫)については「増えた」との回答が12.9%にとどまり、妻における「増えた」との回答率とは2倍以上

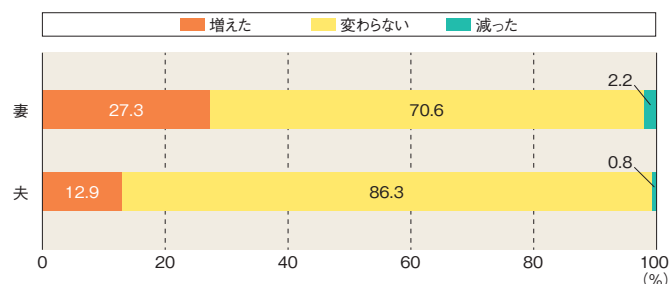
の差があった(図表1)。

妻の家事・育児負担の変化について年代別に見ると、30歳代と40歳代で「増えた」が3割超となっている(図表2)。また、末子の属性別に見ると、末子が中高生以下の世帯において、「増えた」が3割超となっている(図表3)。

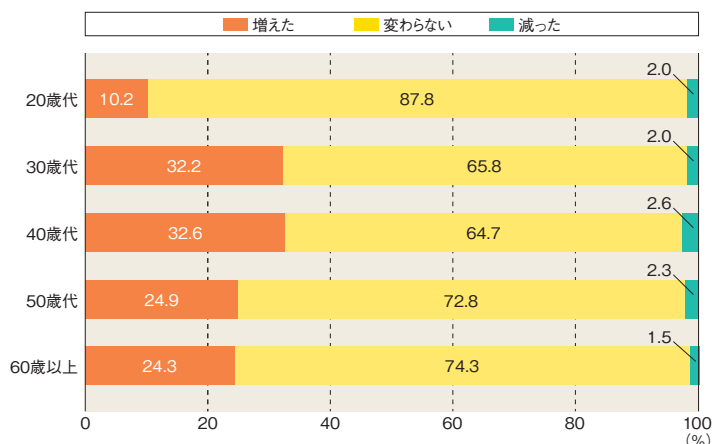
B. 夫の家事・育児負担に対する満足度

夫の家事・育児負担に対する満足度を尋ねたところ、「満足」との回答(「満足」+「まあ満足」)が59.7%、「不満」との回答(「少し不満」+「かなり不満」)が40.3%となった。およそ

図表1 コロナによる家事・育児負担の変化



図表2 妻の家事・育児負担の変化(妻の年代別)



4割の回答者が夫の家事・育児負担について「不満」と感じていた。一方、新型コロナが流行する前については、「満足」が58.3%、「不満」が41.6%と、新型コロナ流行の前後ではあまり大きな差は見られなかった(図表4)。

夫の現在の家事・育児負担に対する満足度について、妻の年代別に見ると、年代が高くなるほど「満足」の割合が低くなっており、60歳以上は「不満」が「満足」を上回っている(図表5)。

コロナによる家事・育児負担の変化について、夫の現在の家事・育児負担に対する満足度別に見ると、現在

の家事・育児負担に対して「満足」と回答した妻の場合、妻と夫の間に回答率の差はほとんど見られない。一方、「不満」と回答した妻の場合、妻の「増えた」が44.1%なのに対し、夫は8.0%と5倍以上の開きがある(図表6)。

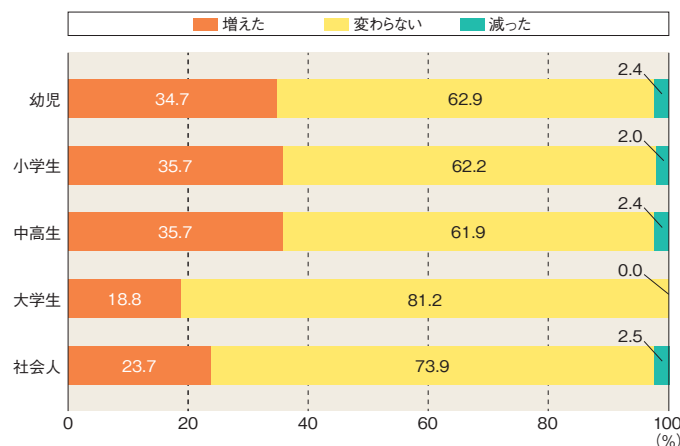
C. 妻と夫の家事・育児分担割合

家庭の家事・育児全体を10とした場合の、妻と夫の家事・育児分担割合を尋ねたところ、最も回答率が高かったのは「妻8:夫2」(27.2%)だった。妻が7割以上との回答(「妻10:夫0」+「妻9:夫1」+「妻8:夫2」+「妻7:夫3」)は78.0%に上った。一方、理

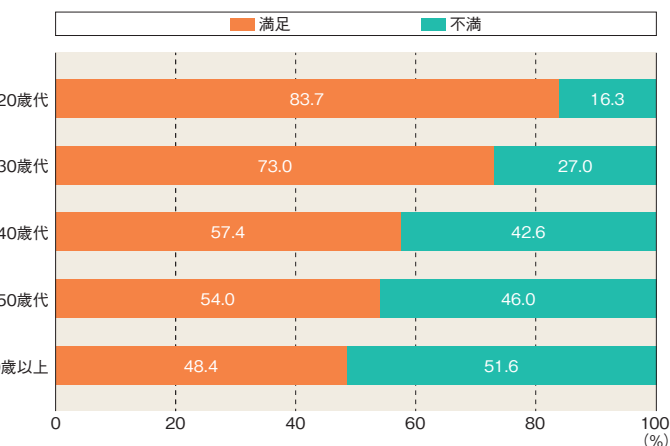
想とする家事・育児分担割合を尋ねると、最も回答率が高かったのは「妻5:夫5」(36.5%)だった(図表7)。

妻の現在の負担割合の平均は7.7となった。理想の負担割合の平均も6.1と夫婦平等を示す5より高く、完全に平等な分担までは求めていないことが分かった。しかし、現実の負担割合と理想の負担割合の差は1.6と、現実と理想との間に乖離が見られる。妻の年代別に見ると、特に40歳代以上が7.9と高く、理想との差も大きくなっている。反対に20歳代は6.3と最も低く、理想との差も0.7と最も小さい。妻の就業形態別に見ると、パートや

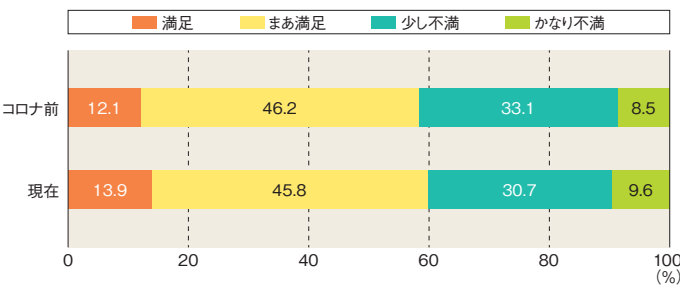
図表3 妻の家事・育児負担の変化(末子の属性別)



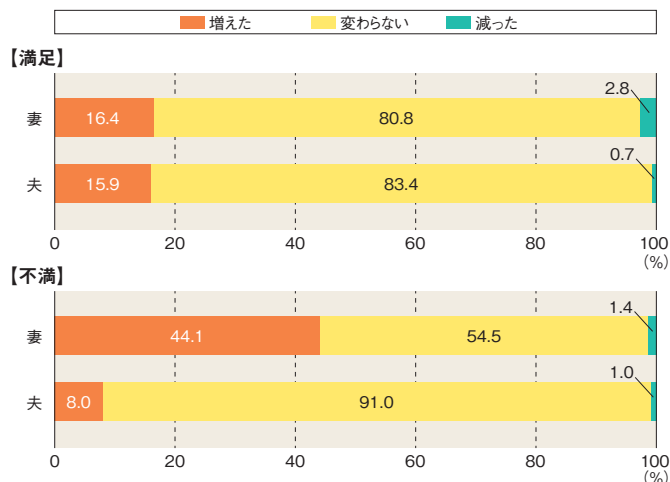
図表5 夫の現在の家事・育児負担に対する満足度(妻の年代別)



図表4 夫の家事・育児負担に対する満足度



図表6 家事・育児負担の変化(満足度別)



正社員等でも妻の負担割合は7を超えている。また、夫の家事・育児負担に対する満足度別に見ると、「不満」と回答した妻の負担割合は8.4と高い値を示しており、理想との差も2.3と突出している。家事・育児負担の重さが不満につながっているようである(図表8)。

D. 家事・育児負担に関する自由意見

家事・育児負担に関する自由意見では、「夫の家事負担が少ないと感じる」「夫が家のことを全くしない」と不満の声が聞かれた。また、「女が家事・育児をして当たり前という時代

はなくなってほしい」という声がある反面、「収入が夫より少ないなら家事負担が多くても仕方がない」という声も聞かれた。しかしその一方で、性別や収入差に関係なく「時間に余裕があるほうがやればよい」「お互いの仕事や体調に合わせてやるべき」「育児については全員でやる」という意見もあった(図表9)。

(2) 夫の在宅勤務について

A. 夫の在宅勤務の経験

新型コロナが流行して以降、夫の在宅勤務の有無を尋ねたところ、「在宅勤務をした」が22.8%、「在宅

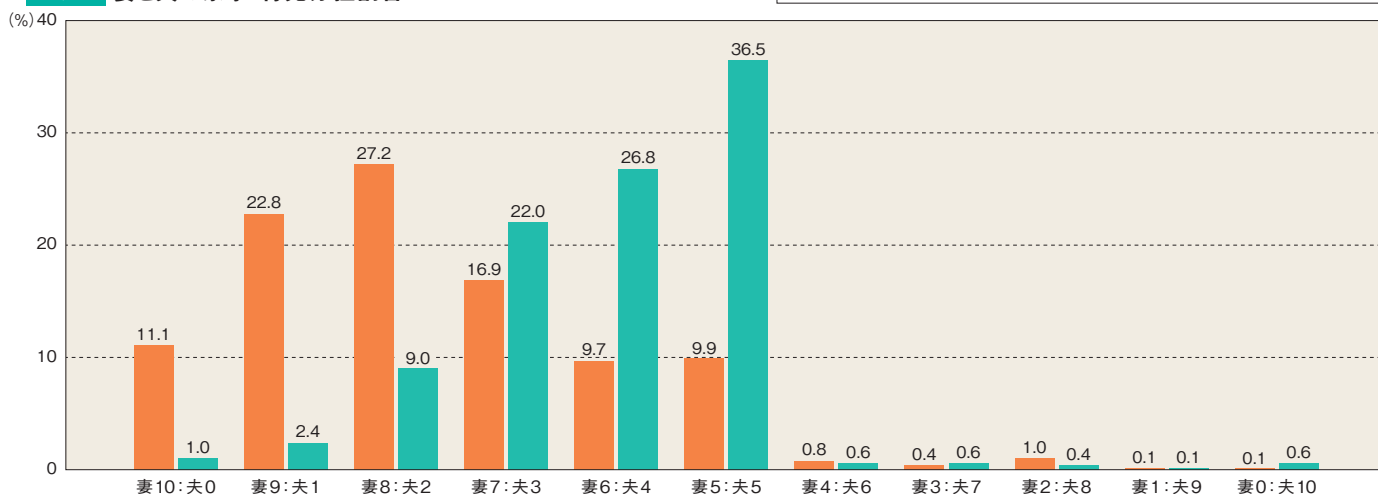
勤務をしていない」が77.2%となった(図表10)。

コロナによる家事・育児負担の変化について、夫の在宅勤務の経験別に見てみると、夫が在宅勤務をしたと回答した家庭では、32.9%の妻が「増えた」と回答した。夫の家事・育児負担についても、在宅勤務をした家庭では20.1%が「増えた」と回答したものの、妻の「増えた」を10ポイント以上下回っている(図表11)。

B. 夫に在宅勤務してほしいか

夫に在宅勤務を利用してほしいかを尋ねたところ、「利用してほしい」

図表7 妻と夫の家事・育児負担割合



図表8 妻の家事・育児負担割合の平均(妻の属性別)

	現実	理想	差
全体	7.7	6.1	1.6
20歳代	6.3	5.6	0.7
30歳代	7.2	6.1	1.2
40歳代	7.9	6.2	1.7
50歳代	7.9	6.1	1.8
60歳以上	7.9	6.0	2.0
専業主婦	7.9	6.7	1.2
正社員等	7.3	5.8	1.5
パート	8.0	6.2	1.8
満足	7.1	6.1	1.1
不満	8.4	6.1	2.3

が27.1%、「利用してほしくない」が40.6%となった。「利用してほしくない」が「利用してほしい」を上回る結果となった(図表12)。妻の年代別に見ると、若い年代ほど「利用してほしい」の回答率が高い(図表13)。また、末子の属性別に見ると、幼児において「利用してほしい」が44.7%と高く、「利用してほしくない」(25.2%)を大きく上回っている(図表14)。

夫の在宅勤務の経験別に見ると、夫が在宅勤務をした妻は「利用してほしい」が51.8%と高くなっている。夫の在宅勤務を経験した妻は、夫の在宅勤務を支持する傾向にあることが分かる(図表15)。

夫の家事・育児負担に対する満

足度別に見ると、夫の家事・育児負担に不満な妻は半数以上が「利用してほしくない」と回答している(図表16)。また、妻の家事・育児負担割合の平均を見ると、「利用してほしくない」と回答した妻は8.1と妻の負担が特に重いうえに、理想との差は1.9と理想と現実の乖離も大きい。家事・育児の負担が重く不満を抱えている妻ほど、夫に在宅勤務を望んでいないことが分かる(図表17)。

夫に在宅勤務を「利用してほしい」と回答した理由としては、「家事・育児の協力が得やすい」との声が多かった。また、「新型コロナウイルスの感染リスクを減らすため」「家族で過ごす時間が増える」「通勤の負担が

減る」との声も多く聞かれた。

一方、夫に在宅勤務を「利用してほしくない」と回答した理由としては、「食事の用意等が大変」との声が多かった。また、「1人の時間が減る」「食費や光熱費が増える」「静かにするなど気がつかう」との声も多く聞かれた(図表18)。

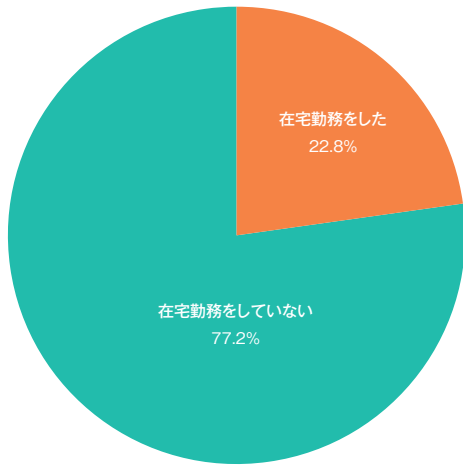
C. 夫の在宅勤務に期待する効果

夫の在宅勤務に期待する効果を尋ねたところ、「家事に時間を使う」が32.7%、次いで「家族とのコミュニケーションを増やす」が28.9%、「休憩・睡眠時間を確保する」が24.2%となった。一方、「特にない」は30.1%に及んだ(図表19)。

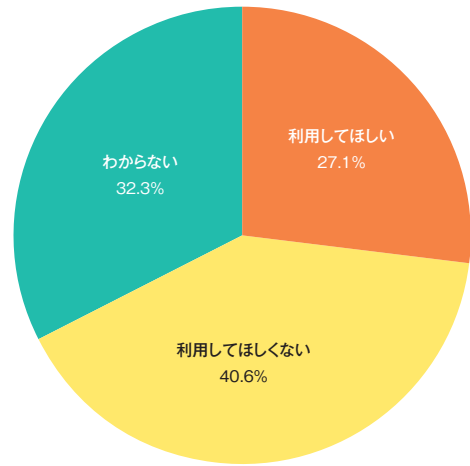
図表9 家事・育児負担に関する自由意見(抜粋)

- 共働きなので、できることをおたがいがやる。(30歳代／正社員等)
- 女性の家事・育児の負担は以前に比べると減ったが、社会全体が変わらないと平等になるのは難しい。(30歳代／正社員等)
- 共働きの家庭では、家事・育児は家族全員で!(40歳代／正社員等)
- 配偶者の家事負担が少ないとすごく感じた。(40歳代／正社員等)
- やってほしい事(出来る事)を明確にするといいかも。(40歳代／正社員等)
- 子どもの塾の送迎など、夫が仕事を早く終わることができる環境であれば助かる。(40歳代／パート)
- 大黒柱である主人の収入とくらべ、私の収入は少ないので、家事の負担が多いのはしかたないと思っていましたが、育児は手伝ってほしいです。(40歳代／パート)
- 家事について、自分がやれない事をやってもらえると大変助かると思う。(50歳代／正社員等)
- 女は家事、育児が当たり前という時代は早くなってほしい。男女共に自立し合う関係性が当たり前になると良い。(50歳代／正社員等)
- 私が仕事して(常勤)、主人が隠居しているが、主人は全く家の事をしない(洗濯物のとりこみだけはする)。昭和の人(夫)に今さら教育しようと思わないので、今後も私の負担は変わらない。(50歳代／正社員等)
- 座っているだけで何もしないならない方がいいです。家事も育児も「どちらがどれだけ」ではなくお互いの仕事や体調に合わせてできる方がやるべきです。そしてお互いに感謝の気持ちを忘れず、言葉にして伝えることが大切です。(50歳代／パート)
- 手が空いている時には、お互いに協力できると日常生活がスムーズにいきます。(50歳代／パート)
- 時間がある人が、やればよいと思います。外で仕事をしている主人が、出来ることを手伝ってくれればよいです。育児に関することは、積極的に意見を出し合って協力することが大切になると思います。(50歳代／パート)
- どのような状況になっても協力することが、家族の中で共有されていけば良いと思います。(50歳代／パート)
- 夫婦で一緒にやっていくとコミュニケーションが取れ、夫婦円満になると思います。(50歳代／パート)
- 今の若いお母さん方は我々(60代～70代)に比べると、働いてみえる方が多いので、大変だろうと思います。しかし、息子もそうですが、若いお父さん方は昔と比べ、格段に協力的ではありません。(60歳以上／正社員等)
- 仕事で遅くなった時は、協力してほしい。(60歳以上／パート)

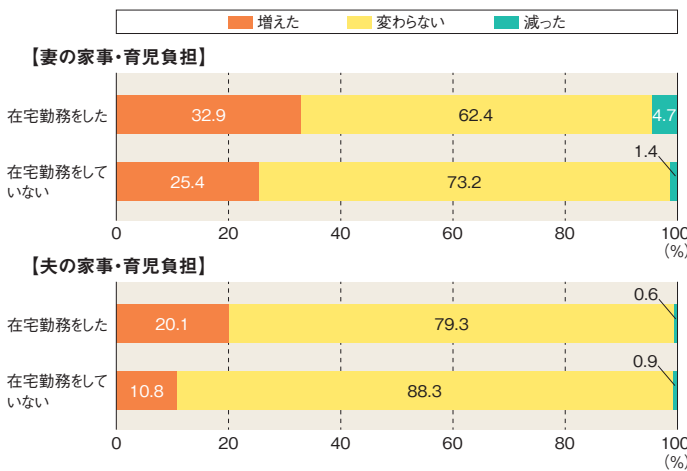
図表10 夫の在宅勤務の経験



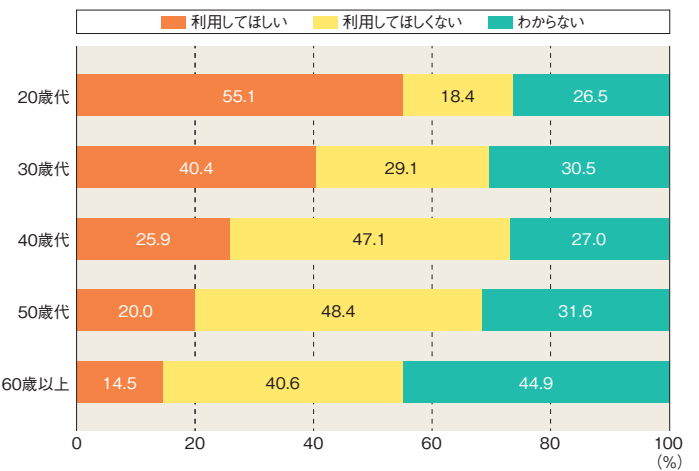
図表12 夫に在宅勤務してほしいか(全体)



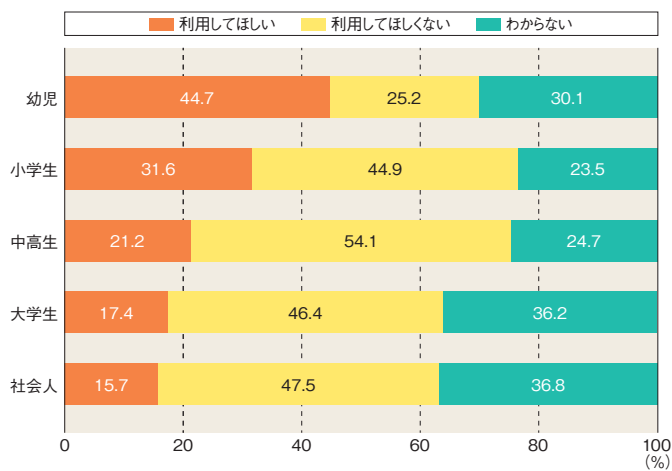
図表11 コロナによる家事・育児負担の変化(夫の在宅勤務の経験別)



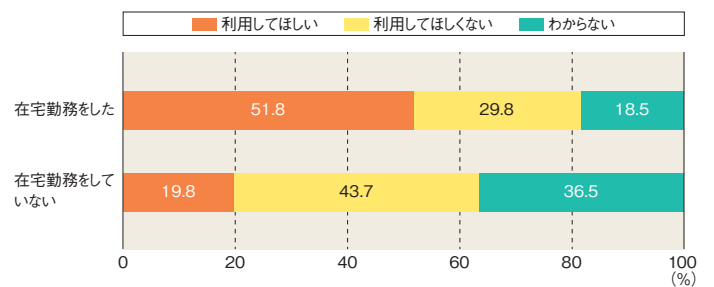
図表13 夫に在宅勤務してほしいか(妻の年代別)



図表14 夫に在宅勤務してほしいか(末子の属性別)



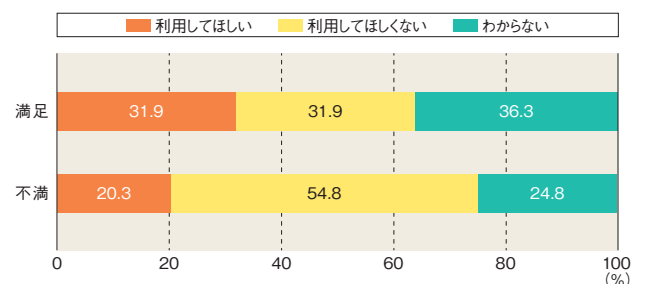
図表15 夫に在宅勤務してほしいか(夫の在宅勤務の経験別)



図表17 妻の家事・育児負担割合の平均(夫の在宅勤務の希望別)

	現実	理想	差
利用してほしい	7.2	5.9	1.3
利用してほしくない	8.1	6.2	1.9

図表16 夫に在宅勤務してほしいか(満足度別)



妻の年代別に見ると、20歳代と40歳代は「家事に時間を使う」、30歳代は「家族とのコミュニケーションを増やす」が最も回答率が高かった。在宅勤務を「利用してほしい」の回答率が高かった50歳代と60歳以上については、「特にない」が最も回答率が高い。また、同じく「利用してほしい」が高かった40歳代も「特にない」が3割に及んでいる。一方、20歳代と30歳代は「特にない」が1割程度となっており、比較的若い年代が在宅勤務に何らかの効果を期待している。

「育児に時間を使う」については、20～40歳代の回答率が高く、特に30歳代は43.3%と突出している。さらに末子の属性別に見ると、特に幼児や小学生において「育児に時間を使う」の回答率が高い。在宅勤務は幼い子どもがいる家庭にニーズがあることが読み取れる。

妻の就業形態別に見ると、正社員等は「家事に時間を使う」が40.6%と最も高く、他と比べて突出

している。理想とする家事・育児負担割合の平均が5.8と比較的低い値を示していたことから、正社員等の妻は、在宅勤務の夫に対し家事を期待する傾向が強いことが分かる。

D. 夫の在宅勤務に関する自由意見

夫の在宅勤務に関する自由意見では、「在宅勤務でも夫に家事を期待できない」「普段家事をしない人は、在宅勤務になっても家事をするわけではない」という声が聞かれた。また、「会社からの強制でなく、家庭の事情に合わせて在宅勤務するかを選べたらいい」という意見もあった(図表20)。

4 おわりに

本調査により、家事・育児負担は妻側に偏っていることがうかがえた。しかも、この傾向は妻が若い年代の場合や就業している場合でも見受

けられた。本調査はあくまで妻のみを対象に尋ねたものであるが、男女平等や男女共同参画が叫ばれて久しいなか、こうした不均衡が見られたことを指摘したい。また、家事・育児負担が重い妻ほど不満が大きかった。夫は率先して家事・育児に参加しなければ、妻はますます不満を募らせていくであろう。

夫の在宅勤務については、夫に在宅勤務を望まない理由として「家事の負担が増える」との声が多く聞かれた。また、夫に在宅勤務を望む理由として「家事・育児を手伝ってもらえる」が多かった。これらは、夫に家事・育児により一層参加してもらいたいという妻側の期待の裏付けでもあると思われる。普段あまり家事・育児に関わっていない夫であれば、在宅勤務で時間的な余裕ができた場合、家庭の家事・育児に進んで参加していくことが望まれる。在宅勤務を機に、年代を問わず夫婦の家事・育児分担について話し合ってみてはいかがだろうか。

図表18 在宅勤務を利用してほしい理由(抜粋)

- 自分が働いており、家事をしてもらえると助かるから。(20歳代/正社員等)
- 子どもの迎えやごみ出しなどを手伝ってくれるようになった。(30歳代/正社員等)
- 夕食を作ってくれるため。(30歳代/正社員等)
- 子どもが体調不良等のときに、私が仕事を休まなくてもいいから。(40歳代/パート)
- 子どもがまだ小さいので、在宅勤務で感染リスクを減らしてほしい。(30歳代/正社員等)
- コロナで夫の感染が心配だった。(60歳以上/パート)
- 子ども達が喜ぶ。家族で過ごす時間が増える。(30歳代/パート)
- 通勤時間がないため負担がなく気持ち的に楽だったようです。(30歳代/正社員等)

在宅勤務を利用してほしくない理由(抜粋)

- 食事の準備や家事が大変。時間帯を気にして家事が進まない。(20歳代/正社員等)
- 家にも家事を期待出来ない。(60歳代/正社員等)
- 自分が外に出て働いている間、家にいてもらいたくない。光熱費、食費がかかるし家の中が汚れる。(50歳代/パート)
- 1人の時間がなくなるのが嫌だから。(30歳代/専業主婦)
- 一緒の時間が増えると仲が悪くなりそうだから。(40歳代/正社員等)
- 在宅勤務できるような仕事内容ではないから。(40歳代/パート)
- 子どもを静かにさせて仕事に集中できる環境作りをしないといけないから。(40歳代/正社員等)
- 生活のリズムがくろう。(60歳以上/専業主婦)

新型コロナの感染対策として在宅勤務を導入する企業が増えた。本調査の結果、特に若い年代や子育て世代には、在宅勤務へのニーズがあることが分かった。在宅勤務を感染対策の一時的措置としてではなく、男性の育児休暇取得と同様

に推進していくことは、SDGsや働き方改革に取り組むうえで意義があると思われる。自由意見にもあったように、各家庭の事情に合わせて在宅勤務を選べるようにしてもよいのではないか。在宅勤務は家事・育児の時間を捻出できるという点で女

性側の需要が相当高いと思われるが、在宅勤務で家事・育児負担がかえって妻に集中するようであれば、ダイバーシティを目指す社会の動きに逆行しかねず、注視が必要だ。

(2022.2.7)

OKB総研 調査部 梅木 風香

図表19 夫の在宅勤務に期待する効果(属性別)

※複数回答(%)

	家事に時間を使う	家族とのコミュニケーションを増やす	休憩・睡眠時間を確保する	効率的に働くことができる	育児に時間を使う	趣味など自由な時間が増える	勉強やスキルアップに役立てる	その他	特になし
全体	32.7	28.9	24.2	18.6	17.1	12.1	4.8	2.1	30.1
20歳代	61.2	30.6	30.6	34.7	20.4	14.3	4.1	0.0	10.2
30歳代	47.3	48.7	29.3	20.7	43.3	8.7	6.0	2.0	10.7
40歳代	31.6	29.9	26.2	16.6	21.9	9.1	4.3	2.1	30.5
50歳代	23.3	20.9	21.4	18.4	1.5	14.1	4.9	2.4	38.8
60歳以上	22.6	17.5	18.2	13.9	4.4	16.1	4.4	2.2	44.5
専業主婦	20.9	29.9	17.9	16.4	11.9	13.4	7.5	6.0	29.9
正社員等	40.6	26.1	26.7	19.8	18.5	11.6	4.3	1.3	27.7
パート	28.4	31.3	23.9	18.4	17.0	11.8	4.3	2.0	31.3
幼児	49.6	47.1	21.5	20.7	59.5	4.1	6.6	3.3	9.1
小学生	36.5	43.8	31.3	16.7	30.2	13.5	5.2	1.0	18.8
中高生	28.2	24.7	16.5	12.9	8.2	7.1	3.5	1.2	40.0
大学生	26.9	22.4	29.9	17.9	0.0	17.9	4.5	3.0	31.3
社会人	21.1	18.1	21.1	17.7	3.0	15.2	4.6	2.1	43.5

(*) 色付きセルは、各属性における最も回答率の高い項目。

図表20 夫の在宅勤務に関する自由意見(抜粋)

- ・在宅勤務の夫の方が家にいる時間が長いはずなのに、帰ったばかりの私にごはんはまだ?という顔をする。(30歳代/正社員等)
- ・今よりもっと多くの職種で在宅勤務が可能になるといい。(30歳代/パート)
- ・各々の家庭により働き方や事情が異なるため、どのような形が良いのかは決められない。これから社会を担う若い人達があらゆる差別のない、働きやすい環境となることを願っている。(40歳代/正社員等)
- ・在宅勤務が出来る仕事であれば、やった方がいいと思います。通勤時間を有効に使える。(40歳代/パート)
- ・在宅勤務は部屋数が無いときびしいのでは?(40歳代/パート)
- ・生活スタイルによって在宅勤務もしくは勤務時間を選べるといい。(40歳代/パート)
- ・夫の仕事の様子、妻の家事の様子が、在宅勤務によりお互い少しでも理解できるのではないのでしょうか。(50歳代/専業主婦)
- ・配偶者の在宅勤務は求めているが、自分が在宅勤務になれば今より家事はこなしやすくなると思う。(50歳代/正社員等)
- ・普段、家事をしない方は、在宅勤務で家にいても家事をする訳ではない。家にいる時間が長いから家事をしてほしいという希望は現実とのギャップを生み、トラブルになるだけだと改めて感じました。(50歳代/正社員等)
- ・職種や仕事量、手のかかる年齢の子がいるかどうか等、その家庭によって違うと思うので、会社からの強制でなく、選択できるのが一番理想だと思う。(50歳代/パート)
- ・在宅勤務になり、主婦としてのスケジュールが変化したと感じます。(夫が家に)「いる、いない」とで行動が変わりました。(60歳以上/専業主婦)